様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 ５ 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３７０００８

研究課題名（和文）三大一神教における法概念の比較哲学的考察：トマス、アヴェロエス、マイモニデス

研究課題名（英文）Comparative Study on the Concept of Law in Thomas Aquinas, Averroes and Maimonides

研究代表者
山本　芳久（YAMAMOTO, Yoshihisa）

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：５０３７５５９９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,800,000円

研究成果の概要（和文）：イスラーム世界を代表する哲学者であるアヴェロエスとラテン・キリスト教世界を代表する哲学者であるトマス・アクィナスの法思想に関する比較思想的研究に、研究代表者は以前から取り組んできたが、本研究課題において、ユダヤ世界を代表するマイモニデスの法論を加えることによって、比較思想的研究に広がりと奥行きを大幅に加えることができた。現今の世界情勢において、キリスト教、イスラム教、ユダヤ教の文明間対話が焦眉の課題となっているが、それぞれの一神教の神学の基盤を形作った中世の神学・哲学に関する比較思想的考察を遂行することによって、文明間対話の一つの基盤となる研究成果をあげることができた。

研究成果の概要（英文）：The dialogue between the Christian Civilization, the Islamic Civilization and the Jewish Civilization is an urgent task for us today. To grapple with such a task, the analysis of modern politics and economy is not enough. The comparative study of philosophy and theology in the Christian World, the Islamic World and the Jewish World is indispensable. In this study, both the similarity and dissimilarity between the legal thought of the Christian World, the Islamic World and the Jewish World is made clear by the comparative study of the concept of law in Thomas Aquinas, Averroes and Moses Maimonides.

研究分野：哲学、神学、比較宗教学

キーワード：トマス・アクィナス　アヴェロエス　マイモニデス　比較哲学　比較宗教学　神学　法哲学　一神教

１．研究開始当初の背景

ラテン・キリスト教世界において中世哲学が展開していた同時代において、ユダヤ、イスラーム、ビザンティンなどの他の一神教諸文明においても、それぞれの神学体系と古代ギリシア哲学との対話が徐々に進んでいた。三つの一神教の知的伝統が同一の基盤を有するようになったのは、セム的な一神教としての共通性のみによるのではなく、ギリシア哲学の受容の共通性によるところが大きい。

このような経緯の全体を視野に入れた中世哲学の全体像の再構築が世界的な規模で要請されている。我が国においては西洋中世哲学に関しては数多くの研究が遂行されており、イスラーム哲学・イスラーム法・ユダヤ思想に関する優れた専門家も存在している。だが、それらが孤立的な営みとなっていることに問題がある。

このような状況の中で申請者は、ラテン語・ギリシア語とアラビア語・ヘブライ語という多様な言語で哲学的なテキストを読解しつつ一神教の比較哲学的考察を行うという研究課題の着想に至った。

２．研究の目的

別々に研究されることの多い西洋中世哲学、イスラーム哲学、ユダヤ哲学を同じ土俵に乗せ、以下のような三つの成果を得る。

第一は、思想史研究における空白部分を埋め、古代哲学からイスラーム哲学･ユダヤ哲学を経てラテン・キリスト教世界に至る哲学史の多角的な再検討を行なうという基礎的研究の遂行である。

第二に、法の哲学的根拠づけという哲学の根本問題の一つに関して、比較哲学的観点から取り組む。

第三に、現代の焦眉の課題である文明間対話に関して、西洋近代的な観点からのみ取り組むのではなく、共通の地平の中で文明を形成していたとも言える中世哲学の時代に着目することによって、三文明間の連続性と非連続性の詳細を明らかにし、新たな対話の可能性を見出す。

即ち、本研究は、哲学史的･文献学的研究、法哲学的探求、文明論的対話という相互に連関した重層的な目的を有する。

３．研究の方法

キリスト教世界の代表的な哲学者であるトマス・アクィナスとイスラーム世界を代表する哲学者であるアヴェロエスとユダヤ世界を代表するマイモニデスの法理論を比較哲学的・比較宗教学的に考察することによって、法理論のみではなく、両世界を規定している基本的な思惟構造の連続性と非連続性の双方が浮き彫りになる。それゆえ、トマスのラテン語原典およびアヴェロエスのアラビア語原典を精読し、更に､英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語による二次文献を踏まえつつ哲学的な考察を深めることが、本研究の基本的な方法論である。

４．研究成果

2016 年 2 月に発表した「マイモニデス『迷える者の導き」における「啓示的法」と「理性」」（竹下賢他編『法の理論 34」所収、2016 年 2 月､91-118 頁）は、研究代表者がユダヤ教の法思想について発表した最初の論文である。

ユダヤ世界を代表するマイモニデスの法論は、イスラーム世界のアヴェロエスとラテン・キリスト教世界のトマス・アクィナスの法論の比較思想的考察のための大きな補助線を提供するものである。

この論文において浮き彫りになったユダヤ法思想の基本構造を軸にしながら、最終年度は、イスラーム世界を代表する哲学者であるアヴェロエスの法論と、キリスト教世界を代表する哲学者であるトマス・アクィナスの法論とを綿密に比較しつつ、「三大一神教における法概念の比較僻学的考察： トマス、アヴェロエス、マイモニデス」という本研究課題の総括となる考察を行った。そのさい、アヴェロエスの法論については、既に発表している「アヴェロエス『決定的論考』における『法』と「哲学」の調和」（東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻編『国際社会科学』第 60 輯、2011 年 3 月、21-38 頁）を手がかりに考察を進めた。また、トマス・アクィナスの法思想については、拙著『トマス・アクィナスにおける人格の存在論』（知泉書館、2013 年）に収められている「トマス自然法論の基本構造：自然法の第一原理」(223-241 頁） と「自然法と万民法： トマスからスアレスへ」(243-261 頁）を手がかりに探求を進めた。

研究代表者が、キリスト教の法思想とイスラム教の法思想との比較を軸に長らく進めてきた比較思想的考察に、ユダヤ教の法思想というもう一つの軸を加えることによって、哲学的考察に大きな広がりを加えることができた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　17　件）

(1) <u>山本芳久</u>「トマス･アクィナスの「沈黙」」、『文學界』71(2)、2017 年 2 月、260-261 頁。査読なし。

(2) <u>山本芳久</u>「キリスト教の「愛」を捉えなおす」、『本のひろば』2016 年 4 月号(699)、2-3 頁。査読なし。

(3) 山本芳久「神の「コトバ」としてのイエス」、『福音と世界』2016 年 4 月号、44-45 頁。査読なし。

(4) 山本芳久「岩下壮一の神学思想：『信仰の遺産』を読む」、上智大学キリスト教文化研究所編『キリスト教文化研究所紀要』34 号（2016 年 3 月）、 47-67 頁。査読なし。

(5) 山本芳久「存在論的倫理学の試み：シュペーマン『幸福と仁愛』を読む」、UP（東京大学出版会編）、2016 年 2 月号、6-12 頁。査読なし。

(6) 山本芳久「マイモニデス『迷える者の導き』における「啓示的法」と「理性」」、竹下賢他編『法の理論 34』所収、2016 年 2 月、91-118 頁。査読あり。

(7) 山本芳久「エロース、アガペー、カリタス：ルージュモンからアウグスティヌスへ」、『Nyx』第二号、2015 年 12 月、278-293 頁。査読なし。

(8) 山本芳久「神学・宗教哲学と歴史学・社会学の橋渡しをなす　E・トレルチ『中世キリスト教の社会教説』」、『本のひろば』(690)、2015 年 7 月、12-13 頁。査読なし。

(9) 山本芳久「「理性」と「伝統」：トマス・アクィナスのユダヤ人観を手がかりに」、京都ユダヤ思想学会編『京都ユダヤ思想』第 5 号、2015 年 6 月、77-95 頁。査読あり。

(10) 山本芳久「文人哲学者 井筒俊彦」、『井筒俊彦全集』第九巻月報、2015 年 2 月、6-8 頁。査読なし。

(11) 山本芳久「自由と愛の「創発」としての生命」、『三田文学』第 94 巻第 120 号、2015 年 2 月、230-232 頁。査読なし。

(12) Yoshihisa Yamamoto, “Review: *The Bible and Asia: From the Pre-Christian Era to the Postcolonial Age*. By R. S. Sugirtharajah. Cambridge, Mass.: Harvard University Press, 2013. Pp. 320,” The International Journal of Asian Studies, 12(1)(2015), pp.127-130. 査読なし。

(13) 山本芳久「中世哲学の万華鏡」、教父研究会編『パトリスティカ』第 18 号、2014 年 12 月、175-180 頁。査読なし。

(14) 山本芳久「井筒俊彦とキリスト教 ： 存在論的原理としての愛」、『三田文学』第 93 巻第 117 号、2014 年 5 月、126-151 頁。査読なし。

(15) 山本芳久「須賀敦子の霊性：日常性の神学」、『三田文学』第 93 巻第 116 号、2014 年 5 月、98-123 頁。査読なし。

(16) 山本芳久「「キリストの存在論」の構築へ向けて」、『春秋』558 号、2014 年 5 月、13-15 頁。査読なし。

(17) 山本芳久「トマス・アクィナスの再発見 ： 霊性の哲学」、『創文』13 号、2014 年 4 月、10-12 頁。査読なし。

〔学会発表〕（計　4 件）

(1) 山本芳久「いのちの経営：キリスト教とイスラム教の対話を通して」、第 5 回地球市民教育フォーラム、自由学園南沢キャンパス（東京都東久留米市）、2017 年 2 月 18 日。

(2) 山本芳久「ディオニシウス受容の多面性：マクシモスとトマス・アクィナス」、第 158 回教父研究会、東京大学駒場キャンパス(東京都目黒区)、2016 年 12 月 17 日。

(3) 山本芳久「岩下壮一『信仰の遺産』を読む」、上智大学キリスト教文化研究所第 43 回連続講演会、上智大学四ツ谷キャンパス(東京都千代田区)、2015 年 6 月 21 日。

(4) 山本芳久「トマス・アクィナスの感情論：肯定の哲学」、第三回道徳・社会認知研究会、東京大学駒場キャンパス(東京都目黒区)、2015 年 2 月 14 日。

〔図書〕（計　6　件）

(1) 【共著】秋富克哉・安部浩・古荘真敬・森一郎編『続・ハイデガー読本』法政大学出版局、2016 年 4 月（山本芳久「トマス、スコトゥス、スアレス：「スコラ哲学」の解体と再建」、44-51 頁を寄稿）。

(2) 【共著】上智大学中世思想研究所編『中世における制度と知』知泉書館、2016 年 3 月（山本芳久「トマス・アクィナス『対異教徒大全』の意図と構造」、151-190 頁を寄稿）。

(3) 【解説執筆】井上洋治『日本とイエスの顔（井上洋治著作選集 1)』日本キリスト教団出版局、2015 年 7 月（山本芳久「日本の教父　井上洋治：神の「暖かさ」について」、230-241 頁を寄稿）。

(4) 【注解執筆】岩下壮一『信仰の遺産』岩波文庫、2015 年 3 月（山本芳久注解、稲垣良典解説）。

(5) 【共著】宮本久雄編『ハヤトロギアとエヒイェロギア：アウシュヴィッツ・FUKUSHIMA 以後の思想の可能性』教友社、2015 年 2 月（山本芳久「出エジプト記の脱在論としてのエヒイェロギア」、5-35 頁を寄稿）。

(6) 【単著】山本芳久『トマス・アクィナス 肯定の哲学』慶應義塾大学出版会、2014 年 9 月、1-282 頁、査読なし。

〔その他〕
ホームページ情報
http://researchmap.jp/read0165244/

報道関連情報

毎日新聞　2014 年 12 月 21 日「2014　この 3 冊」に、山本芳久『トマス・アクィナス　肯定の哲学』が、松原隆一郎氏（東京大学教授）により選出された。

週刊読書人　第 3070 号（2014 年 12 月 19 日）「2014 年回顧　動向収穫」（第 3 面）＜哲学＞（選者：貫成人（専修大学教授）氏）にて、山本芳久『トマス・アクィナス　肯定の哲学』が紹介された。

京都新聞　2014 年 12 月 7 日（3 面）の瀬戸内寂聴氏による「天眼　トマス・アクィナスとの縁」にて、山本芳久『トマス・アクィナス　肯定の哲学』が紹介された。

読売新聞 2014 年 12 月 1 日に、山本芳久『トマス・アクィナス　肯定の哲学』に関するインタビュー記事が掲載された。

神戸新聞 2014 年 11 月 23 日の読書面（15 面）および、愛媛新聞 2014 年 11 月 23 日の読書面（14 面）に、森岡正博氏（大阪府立大学教授）よる、山本芳久『トマス・アクィナス　肯定の哲学』の書評が掲載された。

読売新聞 2014 年 11 月 9 日の「本よみうり堂」（14 面）に、若松英輔氏による、山本芳久『トマス・アクィナス　肯定の哲学』の書評が掲載された。

６．研究組織
(1)研究代表者
山本　芳久（YAMAMOTO, Yoshihisa）
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号：50375599